

2021年11月19日(金) 第2852回例会 形式:対面 天候:晴れ 合唱:我等の生業

会長 室伏学 幹事 望月博文

事務所:神奈川県足柄下郡湯河原町宮上 566 湯河原温泉観光協会内 TEL 0465(64)1234 FAX 0465(63)1716

例会場:ニューウェルシティ湯河原 例会日:毎週金曜日 12:30~13:30

会長挨拶

室伏学

私は現在、湯河原温泉旅館協同組合の理事長という役職を務めております。前々任(2代前)の理事長は高知尾会員です。11月14日(日)に、その湯河原温泉旅館協同組合の主催で「三遊亭小遊三一門会」というイベントを開催いたしました。ゲストは講演の「神田伯山」さんで、「湯河原芸妓の舞」の披露もあり、大いに盛り上がりました。会場は湯河原中学校の体育館でした。当クラブ会員の中には、旧・湯河原高校の卒業生の方、父兄の方、また、現在の場所に移転後の湯河原中学校の父兄の方もいらっしゃるかも知れませんが、私にとっては、これまであまりご縁がなく、敷地内に初めて足を踏み入れました。ベテランの方はご承知の通り、1982年(昭和57年)の当クラブ創立20周年記念事業の1つが、当時の湯河原高校(現在の湯河原中学校)校庭内へのミモザアカシア等の植樹でした。40年の年月を経て現存するのか、これまで諸先輩方にお聞きしても何方もご存じないようでした。折角の機会だったので、校内の植栽付近を探索してみました。植物に関して知見のない私には、ミモザアカシアの見分けはつきませんが、残念ながら記念碑やプレートの類は何も見つかりませんでした。学校自体が高校から中学校に変わってしまっているのですから、仕方がないことかも知れません。本日、湯河原ロータリークラブ創立60周年記念事業員の渡辺委員長と2名で湯河原町役場の内藤参事と打ち合わせをして参りましたが、こうしたことも踏まえて、60周年記念事業の検討を進めて参りたいと考えております。

出席報告

会員	25名	出席率	77.27%
欠席	8名	前回の修正出席率	91.67%
(免除者)	3名	前々回の修正出席率	75.00%
ゲスト	1名	事前メイクアップ	0名
ビジター	2名		

ゲスト 慶應義塾大学看護医療学部教授 杉本なおみ様
ビジター 中山富貴子君(茅ヶ崎RC)
原田 徹君(小田原北RC)

連絡事項・幹事報告 なし

スマイル Box

中山富貴子君(茅ヶ崎RC)・原田徹君(小田原北RC)
本日は財団月間にあたり学友の卓話をご依頼頂きありがとうございます。平和フェロー・奨学金委員会の中山と原田が随行させて頂きました。どうぞ宜しく御願い申し上げます
深澤昌光君
土肥会創立90周年式典にご参加いただきました御祝儀をいただきました事で有難うございました。無事終了できました感謝申し上げます。
神谷一博君
10月3日に伊勢原大神宮にて世界ポリオデーキャンペーンの一環としてコロナ沈静化祈願祭に出席して参りました。
神谷一博君
本日は、地区財団平和フェロー・奨学金委員会より中山委員長・原田(小田原北RC)委員、ようこそおいでいただきました。
神谷一博君
慶應義塾大学看護医療学部教授・杉本なおみ様ようこそ湯河原ロータリークラブへお越しいただきました。本日はロータリー学友としての卓話ありがとうございます。

卓話

地区平和フェロー・奨学金委員会 原田 徹 様



第2780地区平和フェロー・奨学金委員会は、3つの奨学金プログラム(平和フェロー奨学金、ロータリー奨学金・第2780地区ロータリー奨学金)を担当しています。ロータリー財団は「世界で良いことをしよう」の理念の下、ロータリアンの寄付で運営されています。ロータリアン皆様からのご寄付が「人を育てるロータリー財団」の活動として、平和フェロー・ロータリー奨学生のための奨学金として活用されています。

1.平和フェロー奨学金

本奨学金は、平和は「人」から始まるという趣旨の下、人材育成を目的として、ポール・ハリス没後50周年を記念し創立

された奨学金プログラムです。平和フェローシップ(支給型の奨学金)を通じて、世界平和と紛争予防の担い手となる人材を育て、平和推進者の世界的ネットワークを築いています。

平和センターは現在世界7カ国(アメリカ・日本・イギリス・オーストラリア・スウェーデン・タイ・ウガンダ)、8つの有名大学(デューク大学・ノースカロライナ大学・国際基督教大学(ICU)・ブラッドフォード大学・クイーンズランド大学・ウプサラ大学・チュラロンコン大学、マケレレ大学)に設置されています。選考基準はプログラムにより異なりますが、「国際関係」「平和」「紛争解決」の分野で3~5年間の職歴を有し、学士号に相当する学位、第2言語能力など、国際的または地域社会での人道的活動や平和活動に取り組む熱意がある人が世界審査により選出されます。この奨学金は1人あたり約80,000ドル(約800~900万円)が支給されます。毎年世界で130名のロータリー平和フェローが選ばれ、平和と紛争解決分野の専門能力開発及び平和と安全保障分野のプログラムを学びます。各平和センターでは、独自のカリキュラムと実地研修が適用され、さまざま方法で平和と紛争解決の研究が行われています。卒業後は、国際機関やNGOでリーダーシップを発揮し、より平和な世界を築くために活躍しています。

日本には東京三鷹の国際基督教大学(ICU)に平和センターがあります。第2750地区を中心とした第2780地区を含む近隣6地区が「ホストエリア連絡協議会」を形成し、当地では毎年25,000ドルを平和センターへ支援しています。地区の第19期生はコソボよりサビナ・カキナリさん(相模原RC)が自国コソボからオンラインで授業を受けていましたが、コロナ状況により本年度に入り1年間の授業延期を希望されました。また第20期生はコロンビアよりルシア・プリードさん(茅ヶ崎RC)について、国際ロータリー及びICUの見解としてコロナのためにフェロー全員の1年間延期が決まりました。

2.ロータリー奨学金

ロータリー財団とクラブは大学・大学院レベルの奨学金を通じて、地域や世界で活躍できる未来のリーダーを育成しています。ロータリー奨学生2人目の緒方貞子さんは学友人道奉仕世界賞を受賞されました。また第2780地区厚木RCの推薦で1987年にアメリカに留学された中満泉さんは国連事務次長になり、現在国連を代表して世界の軍縮を推し進めておられます。以前の地区大会で新世代交流会のファシリテーターをされたUNHCRの中村恵さんもロータリー奨学生でした。ロータリー奨学金(グローバル補助金奨学金)は世界で求められている人道的ニーズや、「ロータリーの7つの重点分野(①平和と紛争予防/紛争解決 ②疾病予防と治療 ③水と衛生 ④母子の健康 ⑤基本的教育と識字率向上 ⑥経済と地域社会の発展 ⑦環境の保護)」に関連した研究のため、大学院または同等の研究機関への留学を支援するプログラムです。この奨学金は1人あたり約34,000ドル(約360万円)の支給型奨学金です。留学後、世界各国で平和の活動に携わる、平和を担う人材を育成するプログラムとご理解頂きたいです。

3. 第2780地区ロータリー奨学金

第2780地区ロータリー奨学金(地区補助金奨学金)とは、海外の大学または大学院で1~2年間、研究分野や芸術・文

化を学ぶための留学先を問わない奨学金です。この奨学金は1人あたり約24,000ドル(約260万円)の支給型奨学金です。

【奨学生募集について】

奨学生募集は4月に応募開始、11月の選考試験、オリエンテーションを実施します。毎年とても優秀な方々が応募されます。ロータリーの奨学金制度は世界平和を目指す学生を育てています。会員の皆様からの頂く年次寄付1人あたり200ドル(約22,000円)の内、約70ドル(約7,700円)はこの人材育成に使われます。

これらのプロジェクトは全て財団への寄付金で運用されています。将来の世界平和貢献のためにロータリアンの皆様の寄付が役立てられていることへのご理解と引き続きのご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

慶應義塾大学看護医療学部教授 杉本なおみ 様

地区平和フェロー・奨学金委員会の原田様による卓話に続き、1986-87年度ロータリー財団奨学生の経歴を持つ、慶應義塾大学看護医療学部教授・杉本なおみ様(藤沢南RC推薦)から「留学経験がその後のキャリアに与えた影響について」と題した卓話が行われました。

杉本様は神奈川県藤沢市生まれ、国際基督教大学在学中にロータリー奨学金に応募され、実に100倍(応募2000名、合格20名)の倍率を突破された才媛です。異文化コミュニケーション学を学んで留学生のカウンセラーになることを目指し、イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校スピーチ・コミュニケーション学科(異文化コミュニケーション学専攻)に派遣され、1989年に修士号、1994年に博士号を取得されました。その後顕著な業績が認められ、2000年に慶應義塾大学看護医療学部へ着任されました。大学でのご担当科目は英語、並びに病気の診断や治療、説明に必要な情報の交換について研究する「医療コミュニケーション学」とのことです。

順風満帆に思える杉本様のご経歴ですが、留学中は「カウンセラーが小切手をなくし、授業料が支払われずあわや国外退去、といった辛い体験をいくつも乗り越えてきた」とのことでした。しかしその経験により「絶対あり得ない」と思えるような話も誠実に耳を傾けるようになり、その信念は現在大学で担当されている「ハラスメント防止委員」の職務にも十分に生かされているとのことでした。

また留学での経験は後進の育成(ゼミ)においても生かされており、具体的にはポリオ撲滅プログラムへ参加した学部生が卒論テーマとして「インドでのワクチン接種行動に関するデータ収集」を選択、さらにロータリー財団奨学金を得てジョンズ・ホプキンス大学への留学を果たしたとのことでした。

卓話の締めくくりとして「ロータリー奨学金は国際理解や学習機会に恵まれない人々へのまなざしがあり、学友コミュニティの充実や各自に『社会への還元』意識が強い」と説明された杉本様の、ロータリー奨学生として、そして医療コミュニケーション学の第一人者として、今後の更なるご活躍を願わずにはられません。(文:クラブ会報委員会)

(編集 11月会報担当:神谷一博/クラブ会報委員会)